

## 平成25年度第4回日本一の健康長寿県構想中央西地域推進協議会の概要

■日時：平成26年2月5日(水) 18:30~20:30

■場所：高知県中央西福祉保健所 2階 大会議室

■出席者：25名 (委員15名、事務局10名)

### ◆委員 (敬称略)

#### ◇医療・保健関係

田村 章 《吾川郡医師会長》

伊與木 増喜 《高知市医師会土佐市選出理事》

広瀬 恒夫 《仁淀歯科医師会長》

近岡 浩史 《高知県薬剤師会高吾支部長》

#### ◇福祉関係

森本 淑江 《いの町社会福祉協議会総務課長》

町田 好徳 《中央西ブロック民生委員児童委員協議会長》

#### ◇行政関係

筒井 誠人 《いの町保健福祉課長》

藤村 信介 《仁淀川町保健福祉課課長補佐》

門田 昭彦 《仁淀川町保健福祉課長》の代理

岡崎 省治 《佐川町健康福祉課長》

岡林 直久 《越知町住民課長》

松岡 一宏 《日高村健康福祉課長》

#### ◇地域組織・団体、住民の代表

若林 正直 《いの町商工会事務局長》

加藤 美代治 《いの町老人クラブ連合会長》

矢野 博子 《中央西地区食生活改善推進協議会長》

永野 浩正 《ずっとここで暮らす応援団幹事》

### ■会議の概要

1 開会あいさつ 【中央西福祉保健所長 片岡 隆策】

2 議事

#### ◆中央西福祉保健所の重点的な取り組みの報告及び意見交換

(1) 生活習慣病予防対策

【事務局】説明

【各委員】

前回の会議で、事務局が準備することとした0.8%塩分濃度の味噌汁を試飲した感想

「だしがよく出ている。家より濃い。丁度よい。おいしい。」との意見あり。

0. 8%でもだしがよければ充分おいしい、もう少し薄くてもよいという意見にまとまった。

**【N 委員】**

先日、高知の食を考える会で、むろ節の味噌汁を飲んだが、大変おいしかった。かつお節より安価なので、むろ節で出し汁をとるのは良いと思った。

○フッ素洗口の取組みに関する発言の概要

**【J 委員】**

管内市町村より遅れた形となったが、25年度から県の事業を活用しフッ素洗口の事業を取り入れた。町内の保育園、小学校、中学校、合計16施設の校長、養護教諭、歯科医師、薬剤師に集まっていただき、9月10日にフッ素の事業の概要を説明した。その後、保護者への説明などスケジュールが進み、現在、6施設、25年度内に9施設、26年度開始が5施設という状況で、ほぼすべての施設が開始することになっている。今のところ、保護者への説明においてトラブルがあったとの報告は受けておらず、比較的スムーズに進んでいると感じている。

(2) 子どもの健やかな育ちへの取組み

**【事務局】 説明**

○妊娠期の取組みに関する発言の概要

**【G 委員】**

本年度から未熟児養育医療の申請窓口が市町村になったことを受け、母子保健における役割が一層強まる中、今年度から活動目的、優先順位、用務内容等の再確認を行うため、母子保健事業に関わるスタッフを集め、母子検討会を定期的に開催し、福祉保健所の助言を得ている。子どもたちと保護者に関わる機会は、妊娠届出時から始まり、新生児訪問、乳幼児健診の節目節目で生きる力をはぐくむために、必要と考えるものを伝えていくことが必要。デジタル化時代で情報があふれる中、情報に左右されマニュアルどおりに行かないと育児に不安を感じる保護者が多い。また核家族化により、世代間で伝承されていた育児の知恵が伝承されづらい環境となっており、生きる力をはぐくむためには、母子保健担当者が当たり前と思うことを敢えて保護者に発信してしっかり伝えることが大切。

一人親世帯における妊娠、出産、未熟児の出生、早期療育を必要とする子どもたちが年々増加することは、虐待に繋がるリスクも高くするものと危惧。今後も町の教育委員会、少年育成センター、ほけん福祉課等が連携して様々な角度から子どもたちと保護者に支援を行っていくことが重要と考えている。当町では健診時に言語聴覚士が入り、言語、発達とかを全体的に見て、リスクのある子どもに注意を払い、必要のある時には療育福祉センターに繋ぐ取組みをしている。出生後だけでなく、妊娠期から

一貫した関わりと取り組みが必要であり、ほけん福祉課だけでなく、教育委員会、地域との連携が必要。

### (3) 地域包括ケアシステムの構築

#### 【事務局】説明

#### ○中央西地域包括ケアシステム構築事業に関する発言の概要

#### 【B 委員】

平均在院日数の短縮、在宅復帰率の向上、公立病院との関係性が向上したこと、患者の満足度が向上したことなど、成果を感じている。各職種の連携など、顔の見える関係が強まっている。公立病院、訪問看護ステーション、他の事業所との連携を見ると、以前に比べ情報がスムーズに流れていることに加え、医療と介護の勉強会の開催など、生きた知識の共有、情報交換もでき始めた。地域連携室に医療の判る人員も配置され、直ぐに情報が流れて来て、つなぎもよくなっている。また、このシステムを是非、他の地域でも活用ができればよいと感じており、幡多地域が取り入れたいとのことで情報共有、情報交換など支援している。

#### 【A 委員】

吾川郡医師会で事業を担わせてもらっているが、関係機関が真面目に取り組まれて、平成22年度から今年度まで4年間の成果が確実に出てきたのではないかと感じている。

### (4) 中山間対策の加速化・強化の取り組み

#### 【事務局】説明

#### ○民生委員の見守り活動や地域のネットワークへの取り組みに関する発言の概要

#### 【F 委員】

地域の見守りネットワークが非常に大事と思う。いの町では、社会福祉協議会が地域出番会議を順次進め、開催地区の民生委員が参加している。自分自身は出番会議の開催エリアが担当地域でないため、まだ参加していないが、開催される時には参加したい。自主防災の取り組みの中で民生委員の方で台帳づくりなど行っているが、早く組織化をして、平常時から準備や訓練をしておくことが必要。取り組みは各地域で進んでいるが、これから更に進めたい。

#### 【E 委員】

地域出番会議は町を15のエリアに分けて実施中。アクションプランを立て、皆が集う場の活発化、継続、拡大の実践がされている。ネットワークづくりという会議自体の立上げはまだできていないが、合併前の旧町村それぞれに、一人暮らしの高齢者の見守りには協力者がおり、地域ごとの取り組みができる。今後はネットワークの仕組み作りとか支援、連携した取り組みが必要で、地域出番会議を通じて全域に広げてい

く方向で考えている。また、地域福祉の拠点については、あったかふれあいセンターを町から受託して運営しており、障害者、高齢者、介護保険の要支援者たちに集まっていたいただき、見守り、居場所づくりや介護予防を行うことで中山間対策を担っている。

#### (5) 南海地震対策の強化の取組み

##### 【事務局】説明

#### ○災害医療救護訓練に関する発言の概要

##### 【G 委員】

仁淀病院と共に1月26日の午後、災害医療救護訓練を実施。医療救護所として仁淀病院の駐車場を利用。仁淀病院内では救護病院としての訓練を実施。他の病院からの応援スタッフとして土佐市民病院からDMAT、高北病院からの応援チーム派遣、仁淀消防組合の消防署、伊野警察署も含め、役割分担をして実施。34機関、210名が参加した。傷病キットを装着した人を救護所で一次トリアージ。中症、重症は救護病院である仁淀病院へ搬送。そこでさらに高次医療が必要な人は三次救急へ広域搬送するという訓練。反省点も多々あったので、それを今後の対策に活かしたい。実際の災害時には少人数で対応することになるので、そういったことを考えていく。次年度は高北病院で実施されると思うが、また参加することとしている。

##### 【A 委員】

この地域は保健、医療、福祉が連携した取り組みが活発に進められており、成果も出てきているようなので、26年度の新たな取り組みについて、各委員は関係機関と連携協働してさらに取り組んでいただきたい。

#### ◆第6期高知県保健医療計画中央西地域アクションプランについて

##### 【事務局】

12月の第3回協議会で策定した、完成版の配布などについて報告。1千部印刷し、1月中旬から関係する医療機関、介護事業所、福祉関係、消防、行政機関に配布し周知するとともに、当所の関係する会議で会議資料として説明させていただき、プランを共に推進するようお願いしている。配布できていない推進協議会の委員の団体については、総会の場などをお借りしてプランの説明をさせていただくこととしている。

#### ◆次年度の予定

##### 【事務局】

協議会は、本年度は中央西地域のアクションプランの策定もあり4回開催。次年度はそれが無いので、例年通り2回開催の予定。委員の任期は今年の3月末までとなっており、26年度については改めて再任のお願いをしたいと思っており、その際にはご協力をよろしくお願いしたい。